

パステルラボ

障害者支援を拡大

音声案内装置、慶大と研究

【金沢】コンサルティンクなどを手掛けるパステルラボ（金沢市、伊藤数子社長）は、IT（情報技術）を使って障害者の生活を支援する事業を拡大する。慶応大学環境情報学部に加藤文俊助教授の研究室と共同で、視覚障害者や車いすの利用者が安全に道を歩けるよ

うな音声案内システムの研究に乗り出した。研究は出発地から目的地まで、障害者自らが道を歩き「今出発しました」「今右側に〇〇が見えます」などの音声を録音。地図では分からない細かい段差や通行不能の道路など、障害者の生活に役立つ情報を盛り込む。

東京の麻布十番のほかに、金沢市中部の片町、堅町、柿木島商店街でシ

ステムの実用化を目指した実験を始めた。「耳で聞くマップづくりを進め、将来は広い範囲で使えるシステムを開発したい」（伊藤社長）

携帯電話を活用したスポーツ大会の生中継システムも障害者向けに拡大する。六月四日に東京都多摩市、石川県白山市、静岡市、名古屋市の四地域を同社のシステムで接続。ネットを介して各会場で電動車いすサッカー大会を観戦したり、同時にPK合戦などの競技を行えるようにする。

日 経 産 業 新 聞

2006年(平成18年)5月29日(月曜日)